

- 【調査速報】 平安時代の神社を発掘 —長浜市塩津港遺跡—
- 【展示案内】 『旅する画僧・金谷 —近江が生んだ奇才—』
- 【展示案内】 『安土 信長の城と城下町』
- 【開催報告】 歴史文化遺産ガイド育成講座
- 【講座案内】 連続講座『発掘された近江の歴史最前線 2019』



【調査速報】

平安時代の神社を発掘

—^{しおつこう}長浜市塩津港遺跡—



鳥居の柱（南側柱を取り上げています。）

（写真：滋賀県教育委員会 提供）

塩津港遺跡は平成 18 年度からの発掘調査により全国的にも貴重な発見が相次いだ遺跡です。大川改修工事に伴う調査では平安時代後半（11 世紀～ 12 世紀）の神社跡がみつき、境内を取り囲む堀跡からは 全国的にも発見例がない起請文木札（^{きしょうもん きふだ}神様への宣誓の言葉が書かれた木札）や神像などが出土しました。また、国道 8 号バイパス工事に伴う発掘調査では、埋立て工事で築造された平安時代後半の港跡がみつかりました。

今回の調査地は、平安時代後半の神社跡がみつかった調査区の東側にあたります。「鳥居の柱は東側でみつかるのか？」「起請文木札がみつかった堀の東側はどうなっていくのか？」など、これまでの調査では分からなかった神社境内東側の様子が今回の調査で明らかになりました。



長浜市塩津港遺跡 大川改修工事に伴う発掘調査

◆ 起請文木札が多数出土した境内南辺の堀跡は？

境内南辺の堀跡には土橋が設けられ、神社入口となっています。これまでの発掘調査では土橋の西側の堀跡が見つかり、400点以上の起請文木札が出土しています。今回の調査では土橋の東側の堀跡が見つかりました。「王将」と書かれた将棋の駒や箸・松明などのほか、十数点の起請文木札が出土しました。

◆ 東側の鳥居の柱は？

南辺の堀跡の内側では、直径 51 cm もあるモミノキで作られた柱が見つかっていました。土橋付近にあることや直径が太いことから鳥居の柱と考えられてきました。今回の調査では、この柱の東側約 3.8 m の位置で直径 45 cm の柱が見つかり、これらの約 4.3 m 南側でも 2 本の太い柱が見つかりました。北側の柱と南側の柱との間には浅い楕円形の窪みがあることから、鳥居本体の柱はこの窪みに置かれ、4 本の柱は本体の柱を前後で支える控柱である可能性が考えられます。このような構造の鳥居は、長浜市の^{いかがぐ}伊香具神社や高島市の^{しらひげ}白髭神社・広島県の^{いつくしま}厳島神社・福井県の^{けひ}気比神社・石川県の^{けた}気多神社などでみられます。

◆ 境内東辺の堀跡は？

堀跡の続きが見つかりました。この堀跡を境に東側に向かって地面が緩やかに下がっていくことから、神社は大川の岸辺の中州に立地していたと考えられます。



南辺堀跡と鳥居の柱（手前が南側。境内内側は写真左側に広がる。）



鳥居イメージ図



鳥居の柱と柱痕（写真左側の柱は、おおよその位置に合成したものです。）
（写真：滋賀県教育委員会 提供）

◆ 8年間にわたる塩津港遺跡の調査成果を踏まえた神社の概要は？

- ①神社は、奈良時代頃（約 1,200 年前）まで遡る可能性があります。このことは、平安時代の境内を構成する土に多くの奈良時代頃の土器が含まれていたことから分かります。
- ②神社境内は堀で囲まれていました。周囲を四角く区画する堀が見つかり、明確な神社域が確認できました。
- ③最古級の起請文木札が出土しました。書かれた内容から平安時代に栄えた塩津港の人々の活躍がみえてきました。
- ④境内の空間構造が垣間見えました。起請文木札は、境内南堀の西側に集中して捨てられていました。本殿東側には井戸が設けられ、北堀では何らかの祭祀跡も確認されました。境内では奉納した木札や祭祀を行う場所がある程度決められていたと考えられます。
- ⑤境内の建物配置が明らかとなりました。本殿などの建物跡が見つかり、平安時代の神社境内の建物配置が明らかとなりました。現在の境内の建物配置の変遷を考えていく上で重要な発見となります。

神社や港が見つかった塩津港遺跡は、全国的にも例がない貴重な遺跡です。今ではのどかな田園風景が広がる地ですが、900 年程前は多くの人が行き交い集う小都市だったことが調査から明らかとなりました。



塩津港遺跡の報告会
資料はこちら



旅する画僧・金谷 — 近江が生んだ奇才 —



山居怡楽図（琵琶湖文化館蔵）

湖国滋賀を代表する絵師のひとりに、現在の草津市下笠町出身の横井金谷（よこい・きんこく 1761～1832）がいます。金谷は与謝蕪村に大きな影響を受けたことから「近江蕪村」とも呼ばれています。

本展では、琵琶湖文化館の収蔵品と共に、滋賀県立近代美術館、草津市立草津宿街道交流館の金谷作品が一堂に会し、修理後初公開の作品も出陳いたします。郷土の絵師・金谷を広く知っていただくとともに、文化財修理についても考える契機となれば幸いです。

開催期間：平成31年3月16日（土）～5月12日（日） ※会期中展示替えあり。

会場：草津市立草津宿街道交流館 〒525-0034 滋賀県草津市草津 3-10-4

※JR琵琶湖線草津駅東口より徒歩15分

入館料：大人200(160)円、大学・高校生150(120)円、小学・中学生100(80)円

※()内は20名以上の団体料金。他に史跡草津宿本陣との共通券もあり。

開館時間：午前9時～午後5時（入館は閉館の30分前まで）

休館日：4月1日（月）・8日（月）・15日（月）・22日（月）、5月7日（火）

主催：草津市立草津宿街道交流館・滋賀県立近代美術館・滋賀県立琵琶湖文化館

滋賀県立琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先
TEL. 077-522-8179 FAX. 077-522-9634
E-mail: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp
URL: <http://www.biwakobunkakan.jp/>

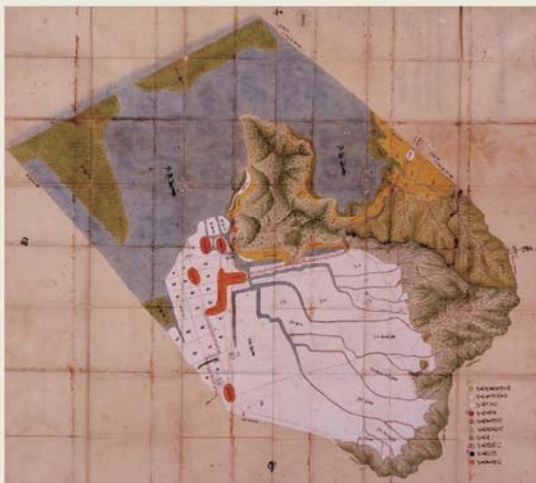


ホームページはこちら

会場は
草津宿街道交流館
です。ぜひ、お越し
ください。



安土 信長の城と城下町



江州蒲生郡豊浦村与須田村山論立会絵図（個人蔵）

全国から注目を集める安土城ですが、その正確な姿はいまだに明らかにされていません。信長が作った安土の城と城下町はどこまでのことが分かっていて、何が課題なのかを、文献資料・絵図・考古資料などを駆使して解き明かします。

開催期間：平成31年4月27日（土）～6月9日（日）

入館料：大人890(680)円 高大生630(460)円 小中生410(310)円

県内高齢者（65歳以上）450(340)円

※()内は20名以上の団体料金 ※「信長の館」との共通券もあります。

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：5月7日（火）・13日（月）・20日（月）・27日（月）

6月3日（月）

滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678
TEL. 0748-46-2424 FAX. 0748-46-6140
URL: <http://www.azuchi-museum.or.jp/>



詳しいご案内はこちら



◆ 出土した鳥居の柱はどうなるの？

遺跡から出土した木製品は、劣化した細胞内に水を含むことで形状を保っています。空気中に置いておくと水分が蒸発し、変形や収縮によって形状が失われてしまいます。そこで、木製品の保存処理は水の代わりに薬剤をしみ込ませて形状を保つことができるようにします。

鳥居の柱は薬剤をしみ込ませたあと、真空凍結乾燥法により保存処理を行いました。氷点下約40度で凍らせたのち真空にして水分を昇華させる方法で、フリーズドライ食品の製法と同じものです。しみ込ませる薬剤が少ないため遺物の色合いが明るく、処理後の重量が軽く仕上がるなどの特徴があります。滋賀県立安土城考古博物館で開催される夏の企画展『塩津港遺跡発掘調査成果展』では、この柱も展示される予定です。ぜひ、ご覧ください。



大型凍結乾燥機による保存処理

歴史文化遺産ガイド育成講座

平成31年1月と2月に歴史文化遺産ガイド育成講座の初級編、中級編を開催しました。これは、公益社団法人滋賀県シルバー人材センター連合会と共催し滋賀県在住の60歳以上の人を対象としたもので、滋賀県にある歴史文化遺産の魅力を総合的かつ広域的に案内できる人材を育成することを目的に開催しました。

初級、中級とも座学を4日間、現地研修(初級：甲賀、中級：坂本、堅田)を1日行いました。初級編では、観光、文化財、城郭、仏像等の基礎を幅広く学び、中級編では、滋賀県にある観光資源になりうる素材を共有し、明智光秀についてグループに別れてワークショップを行いました。

次年度は、今回の中級編を修了した人向けの上級編を実施し、また新たに初級編、中級編、上級編を開催する予定です。



連続講座『発掘された近江の歴史最前線 2019』

受講生大募集

今年5月からスタートの連続講座(全9回)です。文化財/考古学のスペシャリストたちが最新の成果を分かりやすくお伝えします。近江が舞台となる話題のドラマがより楽しめる「特別講座」もあります(9月・1月)。近江の歴史と文化をとおして、インテリジェンスな人生を楽しんでいただく場をご提供します!

第1回 2019年 5月24日(金)

法隆寺式軒瓦が語るもの/栗東市蜂屋遺跡のヒミツ
 当協会調査員 宮村誠二

第2回 2019年 6月21日(金)

穢れを流す/高島市上御殿遺跡にみる古代祭祀の歴史
 当協会調査員 中村智孝

第3回 2019年 7月26日(金)

災いを防ぐセキュリティ/彦根市賀田山遺跡の勧請札
 当協会調査員 木下義信

第4回 2019年 8月30日(金)

【安土城考古博物館の企画展をより楽しむ特別講座】
 古代の物流を支えた港町/長浜市塩津港遺跡を掘る
 当協会調査員 横田洋三

第5回 2019年 9月27日(金)

【朝ドラをより楽しむ特別講座】
 火色の魅惑/信楽焼の技と歴史
 京都市立芸術大学准教授 畑中英二氏

第6回 2019年 10月25日(金)

渡来人の葬送儀礼の移ろい/大津市志賀古墳群の分析
 当協会調査員 堀 真人

第7回 2019年 11月22日(金)

上方と大名の縁とコネ/近世大坂瓦の研究
 当協会調査員 福井知樹

第8回 2020年 1月24日(金)

【大河ドラマをより楽しむ特別講座】
 麒麟の城/瓦から探る大津市坂本城のヒミツ
 当協会調査員 山口誠司

第9回 2020年 2月28日(金)

中世から引き継がれる勧請祭/県内の事例から
 当協会調査員 吉田秀則



第1回

栗東市蜂屋遺跡出土軒瓦(法隆寺式軒瓦)
 (写真：滋賀県教育委員会提供)



- 主催 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
- 受講料 全9回 6,000円(資料代・初回一括払い)
 ※第4回の博物館企画展観覧料も含まれます。
- 時間 13:30~15:15
- 会場 第1~3・5~9回 滋賀県立図書館 大会議室
 第4回 滋賀県立安土城考古博物館

- 定員 100名(申込先着順)
 申込期限 5月22日まで
- 申し込み方法 電話でお申し込み下さい。
 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
 077-548-9780(平日8:30~17:15)